

科目名	授業時数	教科書名	副教材名
中学2年 美術	1	美術2・3 光村図書	画用紙・プリント チョークパステル他

1. 授業のねらい

一年生時の学習を踏まえ、より洗練した発想を育み、作品制作において表現・技術向上を目指します。限られた時間の中で手順良く制作出来るよう、計画をたてます。その際、作品としての結果以上に過程を重要視します。感性だけでなく、思考の重要性を理解することを目指します。

作品鑑賞を通して知見を広げ、様々な表現や思考について理解を深めるようにします。

制作・鑑賞の過程で材料や道具を安全、大切に扱う事を学び、マナー・ルールを守る事を身に付けます。

2. 授業のすすめ方

過去の生徒作品、教科書の作家作品を見せながら、イメージを膨らませます。アイデアスケッチから始め制作の方向性が決まってから実制作に入ります。作品制作中にも教員からのアドバイスや意見交換や教員のアドバイスにより完成度を高めます。

完成後、自分や他人の作品を鑑賞し、意見交換や教員による講評を受けます。

I C T教育導入に際しては、iPad等を適宜利用します。

3. 学習上の留意点

授業は全て教室で行います。週1単位なので、行事や試験で間が開いてもすぐ再開出来るように時間ごとの到達点を明確に設定します。道具を使用する作業の場合は安全を重視し、時間をかけて使用方法を学習します。

課題によっては事前に個別に参考資料や材料を用意します。

授業時は常に下記のことを徹底します。

- 始業・終業時のあいさつをきちんとする。
- 個々の材料や道具には記名をして管理をする。
- 作業後の後片付けをきちんと行う。
- 提出物の期限を守る。

4. 副教材・参考書

画用紙、チョークパステル、黒色ボード紙等を使用します。教員が用意したプリントや関連資料、自ら用意した参考資を使用、視聴します。

5. 評価方法

各学期100点満点で評価をします。

作品準備段階のスケッチ、ワークシート等の提出物と授業態度（40％程度）と課題作品（60％程度）を評価の対象とします。授業態度や提出期限の遵守、正しい道具・材料の管理状態も考慮します。技術的な完成度も大切ですが、制作に対する熱意、限られた条件の中での工夫や表現内容の豊かさ、発展性、失敗を恐れぬ姿勢を重視します。

年度末に各学期の評価から学年成績（評定）を5段階評定で算出します。その他に、「知識・技能」「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」の3つによる観点別評価をそれぞれA、B、Cの3段階により評価します。

6. 定期考査

定期考査は実施しません。

指導計画

期	月	単元名・学習項目	評価方法	到達目標
学 期	四月	「遠近法」 ・鑑賞 「最後の晚餐」 レオナルド・ダ・ヴィンチ 透視図法と作品の構成を学習する。 ・1点・2点・3点透視図法を学習する。	「最後の晚餐」の鑑賞 レポート提出 ワークシートの提出 2点透視図法の作図の 提出 授業姿勢	鑑賞を楽しむ。 図法と用語を理解する。 図法を理解する。 整合性のある図を作図する。単純であっても描き込みが十分に出来ている。 合理性だけでなく、図の視覚的な面白さに工夫を凝らす。配色は図とバランスを考え、濃淡をつけて立体感を出す。
	五月	・作図の実践 電子黒板を使用した参考図の提示をもとに作図法を学習する。 作図練習として配付プリントに各透視図法で立方体を作図する。		
	六月	・2点透視図法で立体図を作図する。 画用紙に幾何学的な立体図を作図する。 2点透視図法を様々に繰り返し、建築物のような立体図の下書きをする。製図ペンで清書をし、色鉛筆で彩色をして仕上げる。		
	七月	1学期のまとめ・講評		
学 期	九月	「チョークパステルを使ったチョークアート」 ・黒色のボードにチョークパステルで自然物をモチーフに チョークアート技法で描く。	チョークパステルの色 見本を制作して提出 チョークパステルの特 性をつかもうとする制 作姿勢 作品解説を提出 チョークパステル画の 提出 授業姿勢	アイデアやイメージを 具体化する。 チョークパステルの特 性を生かした表現が出 来ている。
	十月	・モチーフとなる自然物を選定し、紙面やiPadで画面構成を 検討する。		
	十一月	・チョークパステルを使用した試し描きをし、色塗りの手 順やぼかし方のコツを学習する。		
	十二月	・各自で考えた画面構成に沿って作画を始め、完成を目指す。 2学期のまとめ・講評		
学 期	一月	「レタリング」 和文書体の明朝体とゴシック体の学習。パソコンで使用さ れるフォントや文字サイズについて理解を深める。	ワークシートの提出 明朝体の点画の理解度 と丁寧さ 作品の提出 授業姿勢	書体の特徴を理解す る。 明朝体の字画、点画を 理解し、丁寧に書く。
	二月	・明朝体の「永」を鉛筆で書き、点画の特徴を理解する。		
	三月	・明朝体を使って「桜苑」の文字を画用紙に書く。指定され たサイズのマス目を作図し、その中に文字のバランスを考 えて書く。 ・鉛筆で書いた文字をドローイングペンで清書する。 ・消しゴムで鉛筆の線を消し、色鉛筆で着色をする。		
		3学期のまとめ・講評		

※シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により省略や前後することもありうる。